

【氏名】

喻 仲乾

【所属大学院】(助成決定時)

名古屋大学大学院国際開発研究科

【研究題目】

景德鎮のセラミックス産業における「渡り職人」の再生およびその実態

【研究の目的】

研究の目的は近代化が加速する中国社会において昔ながらの伝統がどうやって生き残ってきているかを、1つの伝統産業の事例を取り上げて再認識することである。近年になって、かつて消えていた伝統は、産業、文化、生活習慣などのあらゆる社会側面において再生してきている。むしろ経済発展によって中国社会全体が変貌していることはいまでもない。ところが、伝統の再生は過去の中国社会の深層にあるものが近代社会においても必要であることを、意味しているのではないだろうか。一方で、伝統の再生とは果たして単純な歴史の再現であろうか、若しくは近代的要素を取り入れた歴史の進歩であろうか。本研究の関心は、このような「変わる、変わらぬ」中国社会の実態を再認識することである。景德鎮のセラミックス産業を事例として取り上げたのは、1990年代に入って以来かつて消えていた手工生産が再興し、それに伴い「渡り職人」という古い職業形態が再生しつつあるからである。

【研究の内容・方法】

研究方法。1)先行研究をまとめ、1949年建国以前の旧手工生産時代における「渡り職人」の形成プロセスとそのミクロの実態(仕事ぶりおよび人間像)を究明した。2)1つの手工工房の集積地域で観察調査とヒアリング調査および政府機関での資料収集を行った。それによって1990年代以来の新手工時代における「渡り職人」の再生プロセスおよびそのミクロの実態を明らかにした。3)上記の調査結果を用いて新旧時代の「渡り職人」の比較を行った。

研究内容。1)旧手工生産時代の「渡り職人」。その形成には景德鎮のセラミックス産業が国内・海外市場の拡大にともなって成長したことを背景に、窯業を営むため景德鎮周辺の地域から移住してきたいわゆる「客籍人」が「渡り職人」の主体となった経緯がある。また、これらの外部労働者や商人たちは約18世紀初期から組織化され始め、結果としていわゆる「」と呼ばれるギルド組織が結成された。中では徽州出身の商人たちは商業と金融業を独占し「」を結成したほか、職業ギルドにおいては都昌県出身のものは大部分の職業を独占し「」というもっとも有力なギルドを結成した。この他、樂平県や南昌府出身のもの

は絵付け業や包装業を独占していたが、結成力においては「徽幫」と「都幫」に及ばず総じて「」と呼ばれていた。2)新手工生産時代の「渡り職人」への考察。「万能達有限公司」という手工工房が集積しているところに焦点を当てて考察を行った。この地域に限っては、「渡り職人」の出身地域は都昌県や樂平県、南昌市等もあるが、景德鎮現地出身のものが大多数であることが分かった。また、彼等の多くは元国有企業の従業員であった事実も明らかになった。一方では、彼等は全く組織されずに雇い主とのあいだには集団的交渉が存在しないし、また彼等の給料の計算はほとんど出来高制であり他の労働条件の確保も難しい現状にある。3)新旧時代の「渡り職人」の比較。これについては次の「結論・考察」を参照されたい。

【結論・考察】

旧時代のそれに対して、新時代の「渡り職人」は以下の点において区別を付けることができる。

- 1．景德鎮現地出身者が主である。これは主に 1980 年代後半から多くの国有企業が経営難に陥り、それら企業の元従業員たちが生業のため技術を持って「渡り職人」に轉身してきたためである。
- 2．組織化されていない。そのために、仕事の確保や労働条件の交渉において極めて不利な地位にある。
- 3．徒弟制度などの職業教育の制度化がなされていない。実際に彼等の多くは徒弟を持たずし、また持つ意欲がないものも少なくない。
- 4．一方では、彼等の間に高い教育を受けたもの、創業経験を持つもの、またこれから創業する意欲を示すものが多くいる。
- 5．総じて、新時代の「渡り職人」は初期発展段階にあって、そのために組織化されていないこと、労働条件や職業の安定性が問題である。一方では、企業家精神が旺盛で、職業技術のみでなく近代的経営知識をも持つなどの面において近代中国が進めている市場経済の要素が入っていると考えられる。